令和５年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 向 小学校 ）　　学校番号　０４２　　【様式】

目 指 す 学 校 像	夢と希望をはぐくむ　楽しい向小

重　点　目　標	１　基礎基本の確実な定着 ２　児童一人ひとりを大切にし、美しくきれいな安心・安全な環境における豊かな心の醸成 ３　学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニケーション力の育成 ４　学び続け、指導力をつけ、プロとしての誇りをもつ教師

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	（現状） ○授業規律を守り、学習活動に積極的に参加する児童が多い。全国学力学習状況調査・さいたま市学習状況調査のアンケート「課題に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」における肯定的回答の平均は９０％であった。 ○Ｒ４全国学力・学習状況調査では国語・算数ともに、Ｒ３年度より向上した。評価の観点では、国語の「思考・判断・表現」の結果が伸びている。 （課題） ○自ら新しい学びに挑戦し、開拓する児童が少ない。 ○国語では「知識・技能」において主語・述語、漢字、敬語の使い方、「思考・判断・表現」において話すこと・聞くことに課題がある。 ○算数では「知識・技能」において基礎的な計算の仕方、「思考・判断・表現」において目的に合った数の処理に課題がある。	・自ら課題を見つけ解決する力の伸長	①「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導を行う。 ②対話力や言語力を身に付けさせ、議論を通して合意形成を図ったり、意思決定をしたり、自分たちの力で学びを深めたりする力を育成するために必要な事項（言語スキルや対話スキル）を系統的に指導する。	①さいたま市学力状況調査のアンケート「課題に向けて自分で考え自分から取り組んでいましたか」における肯定的回答が９１％以上となったか。 ②全教員で各学年の児童の実態を検証して結果に基づく指導法を検討することができたか。				
		・「知識・技能」「思考・判断・表現力」向上のため、指導の重点設定や学習活動の工夫	①国語では、「言葉の使い方に関する事項」の領域を全学年で重点的に取り組む。また、目的や相手を意識して話す場面を設定した学習活動を行う。 ②算数では、ドリル等の基礎的な問題に取り組む時間を設け、計算方法の習熟を図ったり、数量の関係を言葉、数、式、図等を用いて簡潔・明瞭に表現したり、式の意味を読み取ったりする活動を重点的に行う。	①国語の「言葉の使い方に関する事項」の領域において、さ市学調の結果が昨年（６８P）より向上したか。また、「話すこと・聞くこと」の領域において、さいたま市学調の結果が昨年（６１P）より向上したか。 ②算数の「数と計算」の領域において、さ市学調の結果が昨年（５４P）より向上したか。また、「データの活用」の領域において、さいたま市学調の結果が昨年（６６P）より向上したか。				
2	（現状） ○昨年度の学校評価で「学校で楽しく過ごしている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は97%であった。 ○教育環境（施設・設備）の整美に努めている。 ○特別活動（児童会活動）による積極的な生徒指導を行っている。 ○教育相談アンケートによる相談しやすい環境作りを図っている。 （課題） ○児童自らより良い集団や学校にするという形成者としての見方・考え方に課題がある。	・安全・安心な生活の実現に主体的に取り組む児童の育成に向けた教育活動の充実	①光庭（中庭）の整美を児童委員会やコミュニティ・スクールの協働活動として実施する。 ②児童会やコミュニティ・スクールによるあいさつや会釈の励行、廊下歩行キャンペーンを実施する。	①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９７％以上（昨年同等以上）になったか。 ②学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９３％以上（昨年同等以上）になったか。				
		・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた行内体制の充実	①心と生活のアンケートに加え、本校独自で作成したなかよしアンケート、長期休業前アンケートを学期ごとに実施し、併せて必要に応じた個人面談を行う。 ②自ら課題を見つけ解決する力の伸長を主題とした学校課題研究の検証を児童の教育活動を通して行う。	①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９８％以上（昨年同等以上）になったか。 ②児童の実態調査や検証授業の協議結果で向上している評価となったか。				
3	（現状） ○防犯ボランティア・緑化ボランティア・図書ボランティア等、自治会・育成会・PTA を中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域と学校の協働活動が実施されている。 ○コミュニティ・スクールの協働活動として、あいさつ運動や中庭の整美活動を実施している。 （課題） ○組織的・継続的な連携・協働体制には至っていない。	・協働体制による児童育成の状況を地域全体で共有するための広報促進	①本校のホームページでコミュニティ・スクールの協働活動情報を発信する。 ②本校のホームページにおいて、学校行事等各コンテンツの内容に合わせた適宜更新を丁寧に行うことで、学校に関わる方が情報を収集しやすくする。	①コミュニティ・スクール協働活動等の情報配信で広報を促進できたか。 ②学校だより等の配信はタイムリーに効果的に行うことができたか。				
		・支援から連携・協働体制への転換促進	①学校運営協議会において、コミュニティ・スクールとしての成果・課題・改善策を熟議し、スクールサポートネットワーク等と共有することで組織的・継続的な連携・協働体制を構築する。 ②スクールサポートネットワークや PTA の委員会等で育てたい力や目指す児童像について共有するとともに、組織的・継続的な連携・協働体制について協議する。	①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９９％以上（昨年同等以上）になったか。 ②学校運営協議会や SSN、PTA 委員会の中で、地域・保護者・学校それぞれの立場で学校教育目標（目指す児童像）を基盤とした協議・取組みとすることができたか。				
4	（現状） ○職務遂行に係る教職員のスタンダードに基づいて共通行動を行っている。 ○新たな学びのスタイルとなる ICT の活用方法についてエバンジェリストを中心として研修を重ねてきた。 ○高学年教科担任制の実施により、担当する教科についてより広く深い教材研究及び授業ができている。 （課題） ○さらなる職務の質の改善による効率化（働き方改革） ○ICT 活用の促進と「主体的・対話的で深い学び」の学校課題研修を通したさらなる具現化	・校務分掌担当業務の協議・遂行の充実及び校内教職員への周知の効率化	①職員集会を週２回から１回にし、日報をより活用することと各校務分掌での職務を遂行する時間を増やす。 ②文書起案の活用により提案・周知前の検討を効率化する。 ③教職員事故防止チェック表を毎月実施して、自分の状況を振り返る機会とする。	①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９６％以上（昨年以上）になったか。 ②教職員事故防止チェック表の自己評価で肯定的な回答が９５％以上（昨年以上）になったか。				
		・資質向上に係る自己啓発力の促進	①受講検索、奨励の資料として、さいたま市教育委員会の「研修プラットフォーム」を活用する。 ②学年会や学校課題研究の時間確保や内容の充実を図り、授業力や指導力の伸長を組織的に協力して行えるようにする。	①「研修プラットフォーム」をもとにした資料を、教職員の主体的な活用や、管理職による奨励の促進に運用できたか。 ②学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が９９％以上（昨年以上）になったか。				